※令和４年度以降入学生用

| 学校番号 | T3014 |
|---|---|

# 令和５年度　情報科

| 教科 | 情報Ⅰ | 科目 | 情報Ⅰ | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 「情報Ⅰ　Next」（数研出版） | | | | | | |
| 副教材等 | | | | | | | |

## １　担当者からのメッセージ（学習方法等）

これからの情報社会で必須となる情報モラル、セキュリティなど日常生活に活用することのできる基本的な事から、デジタルデータの基礎を知り、情報を活用し社会を生き抜く力を身に付けてほしい。

## ２　学習の到達目標

１．情報通信技術が社会においてどのように活用され、それによりどのような問題が発生するかについて理解する。
２．身近にある情報通信技術を通してどのように発展してきたかについて理解する。
３．情報を活用する力を養い、自らの力で課題を解決する。
４．情報通信技術の在り方について自らの考えを持つために必要な，知識，能力，態度を身に付ける。

## ３　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し，端末を取り扱う技能を身に付けている。 | 情報を取り扱う際に、情報モラルやセキュリティなどにおいて様々な場面で法を遵守した判断を行い、導き出した考えを適切に表現している。 | 情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 前期 | 情報とメディア | 1 節 情報の特徴<br><br>2 節 情報の表現形式 | a:情報がもつ意味や働き、種類を理解し、複数の情報から情報を検証する技能を身に付けている。<br><br>b:情報のもつ価値や信頼性、検証方法について考え、判断しその結果を表現できる。<br><br>c:情報が持つ意味や働き、形式に関心を持ち、積極的に学習しようとしている。 | 観察<br>プリント<br>単元テスト<br>定期テスト | 観察<br>プリント<br>定期テスト | 観察<br>プリント<br>自己評価 |
| | 情報社会における法とセキュリティ | 1節 個人情報<br>2節 著作権<br>3節 情報セキュリティ | a:個人情報やプライバシーの保護、著作権などの知的財産権を保護する必要性やそれに関連する法律の目的について理解し、それらを守るセキュリティの性質を理解する。<br><br>b:情報を適切に扱う法律や責任、著作権などの知的財産を保護することの必要性について判断しその結果を表現できる。<br><br>c:これらを守る情報セキュリティについて関心をもち、活用しようとしている。 | 観察<br>プリント<br>単元テスト<br>定期テスト | 観察<br>プリント<br>定期テスト | 観察<br>プリント<br>自己評価 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 後期 | 情報のデジタル表現 | 1 節デジタル情報の表し方<br><br>2 節デジタル表現 | a:ビットやバイトの概念、デジタル情報の量の単位について理解している。2 進法・10 進法・16 進法の変換のしかたについて理解し,実際に変換を行うことができる。<br>文字コード、音や画像のデジタル化のしくみを理解し文字をを表現することができる。<br><br>b: 2 進法・10 進法・16 進法の数の変換の方法について考え,その結果を適切に表現している。限られたビット数で数値を表現する方法について考え,その結果を適切に表現している。<br><br>c:デジタル情報の表し方について理解し、活用しようとしている。 | 観察<br>プリント<br>単元テスト<br>定期テスト | 観察<br>プリント<br>定期テスト | 観察<br>プリント<br>自己評価 |
| | コミュニケーション手段の発達 | 1節　コミュニケーション手段の発達<br>2節　情報の発信とメディアの性質 | a:情報通信技術の発達がコミュニケーション手段を変化させたことを理解し、情報メディアの性質を理解したうえで適切なメディアで発信する事ができる。<br><br>b:目的に応じて発信するメディアを適切に選択することができる。<br><br>c:コミュニケーションの手段として通信が発達してきた歴史を知ろうとしている。コンピュータを活用して情報を受け手にわかりやすく表現しようとしている。 | 観察<br>プリント<br>単元テスト<br>定期テスト | 観察<br>プリント<br>定期テスト | 観<br>察<br>プリント<br>自己評価 |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度